

6-1 広葉樹資源の価値向上と「広葉樹並材」生産の可能性

大塚 生美¹・太田 敬之²・道中 哲也³・小谷 英司⁴

¹ 森林総合研究所 東北支所、² 森林植生研究領域

³ 生物多様性・気候変動研究拠点、⁴ 森林管理研究領域

森林経営のための情報として、広葉樹材用途の動向を調べました。フローリング材の樹種の多様ななど近年にみる広葉樹の市場環境の変化により、樹種によらない「広葉樹並材」生産としての価値（価格帯）ができつつあることがわかりました。

広葉樹林の持続的経営

岩手県北部のY家所有の森林の半分弱にあたる1,000haは広葉樹林です。生産した素材は、ほかの多くの二次林の利用傾向とは異なり、主に、きのこ原木、薪炭、チップ、製材の4種類の用途で活用しながら、全国でも数少ない大規模森林所有者として経営を維持しています。こうした経営が成り立つ背景として広葉樹材の用途や価格の動向を調べました。

用途別の価格傾向と多様な商品

岩手県の優占種であるナラ類の原木価格は、用途により異なり、製材用として直径40cmまで価格は上昇しますが、きのこ原木、薪炭（黒炭・薪）、チップは、径級によらず価格が安定しています（図1）。また、広葉樹は多くの樹種が商品として使われ、それぞれの樹種でも用途は様々です（表1）。特にフローリング材については、多くの樹種が使われており、消費者の樹種の好みが多様化していることで多様な樹種を販売できると考えられます。

「広葉樹並材」生産の着想

高級材として需要のある家具用等の原木の価格（図2左）は10年前と大きく変わらないのに対し、フローリング等需要が拡大している内装用原木価格は、10年前より樹種間の価格差が小さくなりました（図2右）。フローリング材の樹種の多様化（表1）や価格の平準化は、フローリング用の「広葉樹並材」として安定した価格ができつつあることを示しています。

Y家の事例では、「広葉樹並材」の価格帯ができつつあることで、林齢40～50年生林分の総資産価値の上昇が期待できることがわかりました。

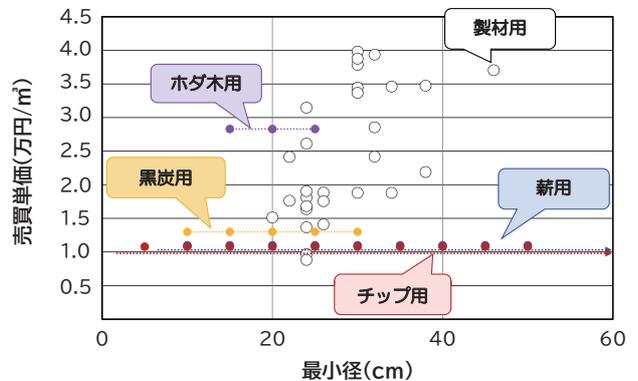


図1 用途別最小径級別原木価格帯（ナラ類、岩手県 2019年）

表1 商品となる樹種と用途の多様性

樹種名	用途	樹種名	用途	樹種名	用途	樹種名	用途
グリ	土台・フローリング・天板・桁家具・内装材・デッキ	ケヤキ	社寺仏閣・家具・内装材・黒黒柱・彫刻	シナノキ	経木・家具・箱・合板	サクラ（カスミサクラ）	建築材・造作材・フローリング・家具・彫刻
ナラ	器具・柄・家具・フローリング	イタヤカエデ	家具・フローリング・楽器（弦楽器）	サワグルミ	家具・合板・スノーボード・パドミン・トングリップ	ヤマザクラ	建築材・造作材（数店）・フローリング・家具・彫刻
ハリギリ	家具・太鼓・桁・ケヤキの代用品	イチヨウ	カウンター・家具・まな板	フナ	家具（曲木）・器具・柄・フローリング	クワ	建築材（床柱）・木工品（基筒）・家具・彫刻
トチノキ	家具・楽器材（弦楽器）・木工品（漆器）	シラカンバ	家具・フローリング・割着・ダボ	オノレカンバ	ソロバンの玉・木工品・印鑑・着	ミズメ	建築材・造作材（数店）・家具・フローリング・木工品

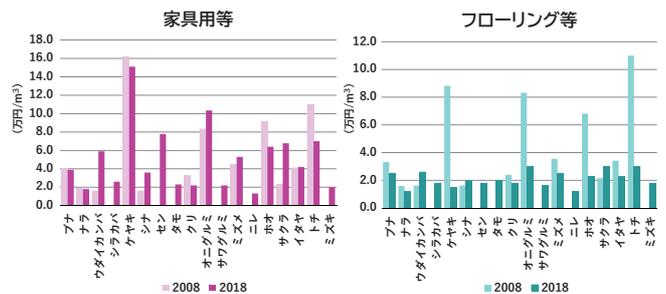


図2 原木価格の10年間の変化 盛岡木材流通センターにおける家具用等とフローリング等の価格

1 活用...
2 空...
3 コスト予測...
4 資産価値...
5 形状と用材...
6 価格動向...
コラム

6-2 盛岡木材流通センターにおける広葉樹原木の価格変動の分析

道中 哲也¹・大塚 生美²・小谷 英司³

¹森林総合研究所 生物多様性・気候変動研究拠点

²東北支所、³森林管理研究領域

原木価格の変動及びその影響要因を明らかにするため、広葉樹原木の取引データを調べました。その結果、原木のサイズが価格に影響し、その中でも直径の影響が最も大きいことがわかりました。原木価格は季節により最大9,200円/m³の価格差がありました。また、コロナ禍で取引量は減少し、原木価格は上昇していることがわかりました。

盛岡木材流通センターを事例に

原木価格の変動及びその影響要因を明らかにするため、広葉樹原木の取引量が日本最大である岩手県森林組合連合会盛岡木材流通センターの17.3万揃（はえ、原木を積み上げて出品する単位）の取引データ（2014年9月から2022年5月までの93ヶ月）を調べました。

ナラ類より、クリ価格のバラツキが大きい

本センターでは、広葉樹原木の取引量も売り上げも、ナラ類とクリが全体の約6割を占めていました。クリはナラ類に比べ、平均価格が高くバラツキも大きい結果でした。ナラ類は多くが内装材や家具として販売されていたのに対し、クリはそれらの用途に加え、一般住宅用や高価格で取引される社寺・仏閣用などの用途でも販売されているためと考えられました。

直径が原木価格の一番重要な影響要因

ナラ、クリのほか、取引量の多い樹種は、ホオノキ、サワグルミ、サクラでした。ひと揃の価格に影響する要因として、個々の原木のサイズや揃内の異なるサイズの混ざり具合（サイズの揃った揃は高値）などがあります。上位5種を樹種ごとにみた場合も、全樹種をまとめた場合も、異なるサイズの混ざり具合よりも、個々のサイズが価格に影響していました。サイズのなかでは原木の長さより直径の影響が最も大きいことがわかりました。

コロナ禍のため月次取引量が減少、原木価格が上昇

毎月の取引量や価格は季節変動を繰り返しながら年による変動傾向もみられました。季節別にみると、夏に低く、冬に高い傾向があり、季節間の価格差は約9,200円/m³でした。また、取引量は、2020年9月以降は低い水準で安定し（図1）、価格は増加傾向にあることがわかりました（図2）。

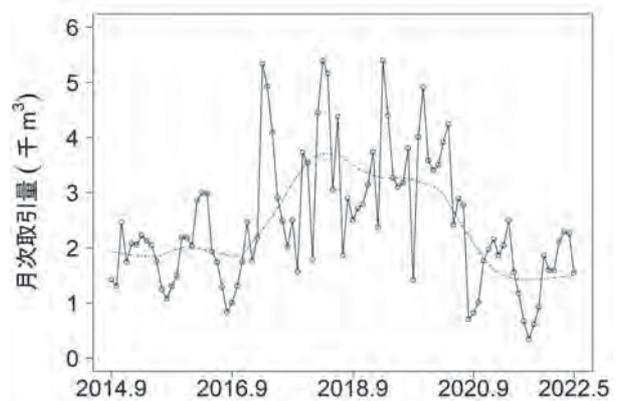


図1 月次取引量の推移と傾向変動

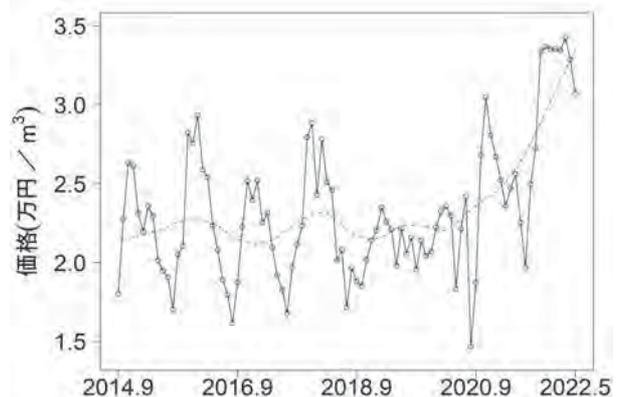


図2 月次平均価格の推移と傾向変動